

在職障害者の余暇支援 ～ベビーリーフの活動～

- 村上 想詞 (ベビーリーフ 会長)
小林 恵子・若山 由美・野澤 寛未・渡邊 美香・
今泉 和世・伊吹 康二 (ベビーリーフ)

～はじめに～

毎年のように雇用障がい者数、実雇用率は過去最高を更新している。一方、職場定着率は・・・

【職場定着率】

就職後3か月時点	就職後1年時点
76.5%	58.4%

障害者職業総合センター『障害者の就業状況等に関する調査研究』

法定雇用率の引き上げ等の雇用機会を増加させるだけでなく、職場定着をいかに図っていくかが重要



職場定着には以下の支援や支援機関がある。

ジョブコーチ
支援

就業・生活
支援センター

就労定着
支援事業

一方、職場定着には余暇活動が就労のモチベーションや職業生活の満足度に影響を及ぼすなど、ワークライフバランスが課題となることがある。



働いている障がい者が利用できる余暇活動のサービスや社会資源は少ないのが現状・・・

～ベビーリーフの活動～

在職障がい者の余暇をサポートする社会資源が少ないため、ボランティア団体（以下、ベビーリーフ）を立ち上げ、令和4年12月より活動してきた。

また、在職障がい者の余暇支援の考え方や実態を調査した結果は見られなかったため、当団体の活動とともに、在職障がい者に実施した余暇活動に係る実態調査の結果について報告する。

①余暇活動の支援

②余暇活動に係る実態調査



～余暇活動の支援～

目的

家庭や職場外の交流の場を提供し、余暇の充実を図ることで、人生の質や就労に対するモチベーション向上を目的とする。

人員

スタッフ数7名、利用者数14名

会場

ボランティアセンター会議室、屋外など

活動日

毎月第4土曜日

活動内容

①屋外活動 動物園や博物館など



②屋内活動 ディスカッション、ゲーム、季節行事など



～余暇活動に係る実態調査～

目的

福祉的就労の場における余暇活動の調査結果は確認できたものの、在職障がい者を対象とした調査結果は見当たらなかったため、実態を把握し、今後求められる取組を明らかにする。

方法

余暇支援の希望や障がい種別問わず、在職障がい者（A型を除く）を対象に、障害者就業・生活支援センター、就労移行支援事業所などの協力を得て33名の方にアンケートを実施。

【アンケート調査の主な質問項目】

- ① 一般情報
- ② 休日と一緒に過ごす主な相手
- ③ 休日に行う活動
- ④ 余暇支援の必要性
- ⑤ 余暇活動に求める内容

令和5年3月4日
Baby Leaf (ベビーリーフ)

余暇活動に係るアンケート調査の協力依頼

ベビーリーフでは、余暇活動の実態を把握することで今後必要な活動内容や余暇支援の必要性などを対外的に周知し、余暇支援の輪を広げていきたいと考えています。

そこで、上記主旨にご賛同いただいた方に現在の余暇活動の現状をアンケートで調査させていただければと考えています。

なお、このアンケート調査では個人が特定されることはありません。また、記載いただいたアンケート結果については余暇活動の実態把握及び支援の重要性を対外的に周知するといった上記目的以外では活用することはありません。

記

① 一般情報	
性別	<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性 <input type="checkbox"/> その他
年齢	<input type="checkbox"/> 10代 <input type="checkbox"/> 20代 <input type="checkbox"/> 30代 <input type="checkbox"/> 40代 <input type="checkbox"/> 50代 <input type="checkbox"/> 60代以上
障害種別	<input type="checkbox"/> 身体 <input type="checkbox"/> 知的 <input type="checkbox"/> 精神 <input type="checkbox"/> 発達 <input type="checkbox"/> 高次脳機能 <input type="checkbox"/> 難病
② 休日と一緒に過ごす主な相手 (複数回答可)	
<input type="checkbox"/> 一人 <input type="checkbox"/> 配偶者 <input type="checkbox"/> 母親 <input type="checkbox"/> 父親 <input type="checkbox"/> 兄弟姉妹 <input type="checkbox"/> 友人 <input type="checkbox"/> 恋人 <input type="checkbox"/> 同居者 <input type="checkbox"/> その他 ()	
③ 休日の主な活動場所 (複数回答可)	
<input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 自宅以外 <input type="checkbox"/> その他 ()	
④ 休日に行う活動 (複数回答可)	
<input type="checkbox"/> テレビ鑑賞 <input type="checkbox"/> ビデオ・DVD鑑賞 <input type="checkbox"/> ネット <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 買い物 <input type="checkbox"/> 料理 <input type="checkbox"/> 習いごと <input type="checkbox"/> ゲーム <input type="checkbox"/> 散歩 <input type="checkbox"/> 手芸 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> 読書 <input type="checkbox"/> 絵画 <input type="checkbox"/> 勉強 <input type="checkbox"/> その他 ()	
⑤ 今まで社会人サークルや習い事などの余暇活動に参加したことの有無	
<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり (活動内容:)	
⑥ ⑤でありと回答した方にお問えます。現在、その活動は継続していますか?	
<input type="checkbox"/> 継続している	
<input type="checkbox"/> 継続していない (理由:)	
⑦ 余暇支援の必要性	
<input type="checkbox"/> とても必要 <input type="checkbox"/> やや必要 <input type="checkbox"/> どちらでもない <input type="checkbox"/> あまり必要ではない <input type="checkbox"/> 全く必要ではない	
⑧ 余暇活動の支援に求める内容 (自由記述)	

ご協力いただきありがとうございます。

【アンケート協力者の構成】

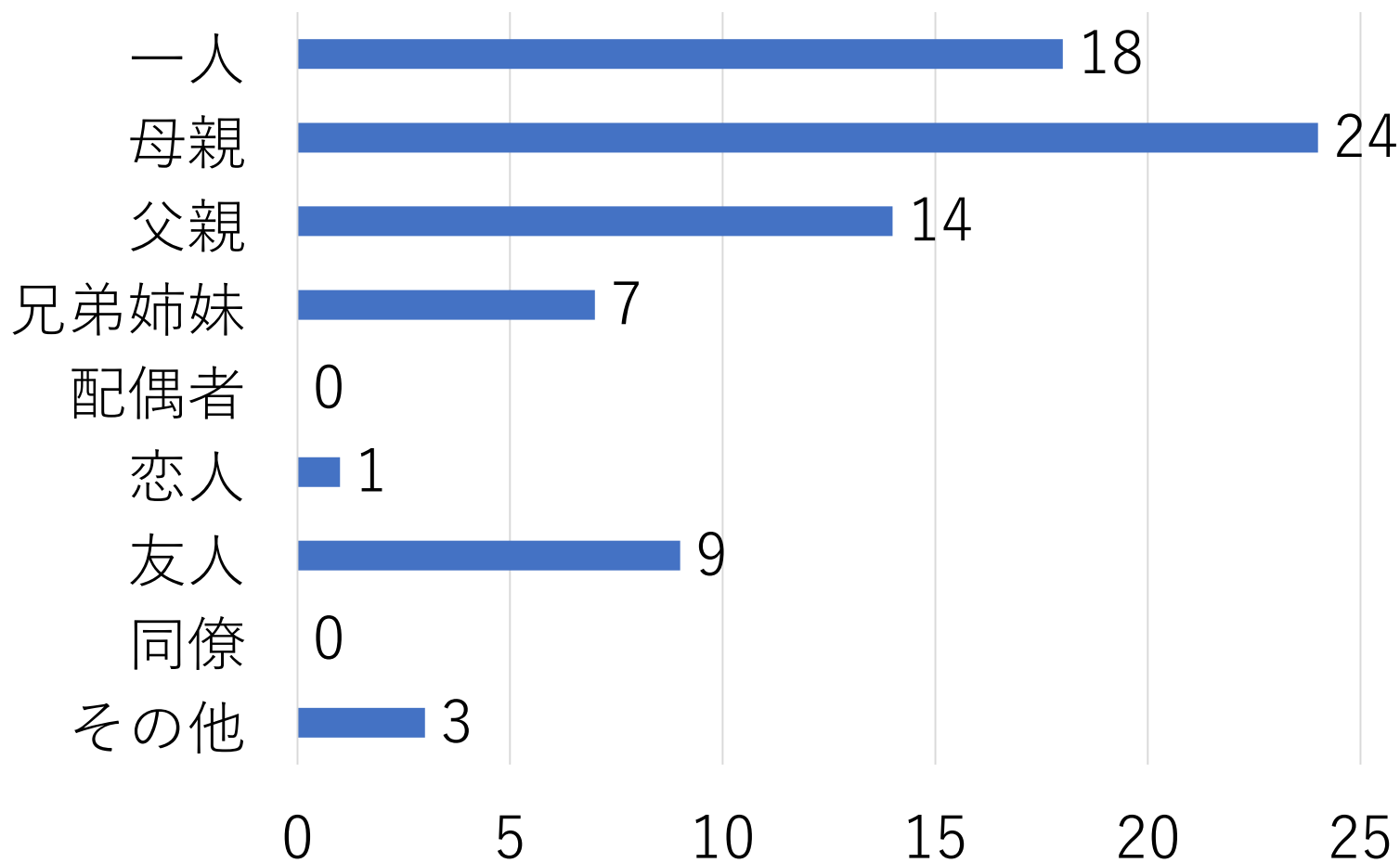
男性	女性
25	8
75.8%	24.2%

10代	20代	30代	40代	50代	60代
1	16	10	5	1	0
3.0%	48.5%	30.3%	15.2%	3.0%	0.0%

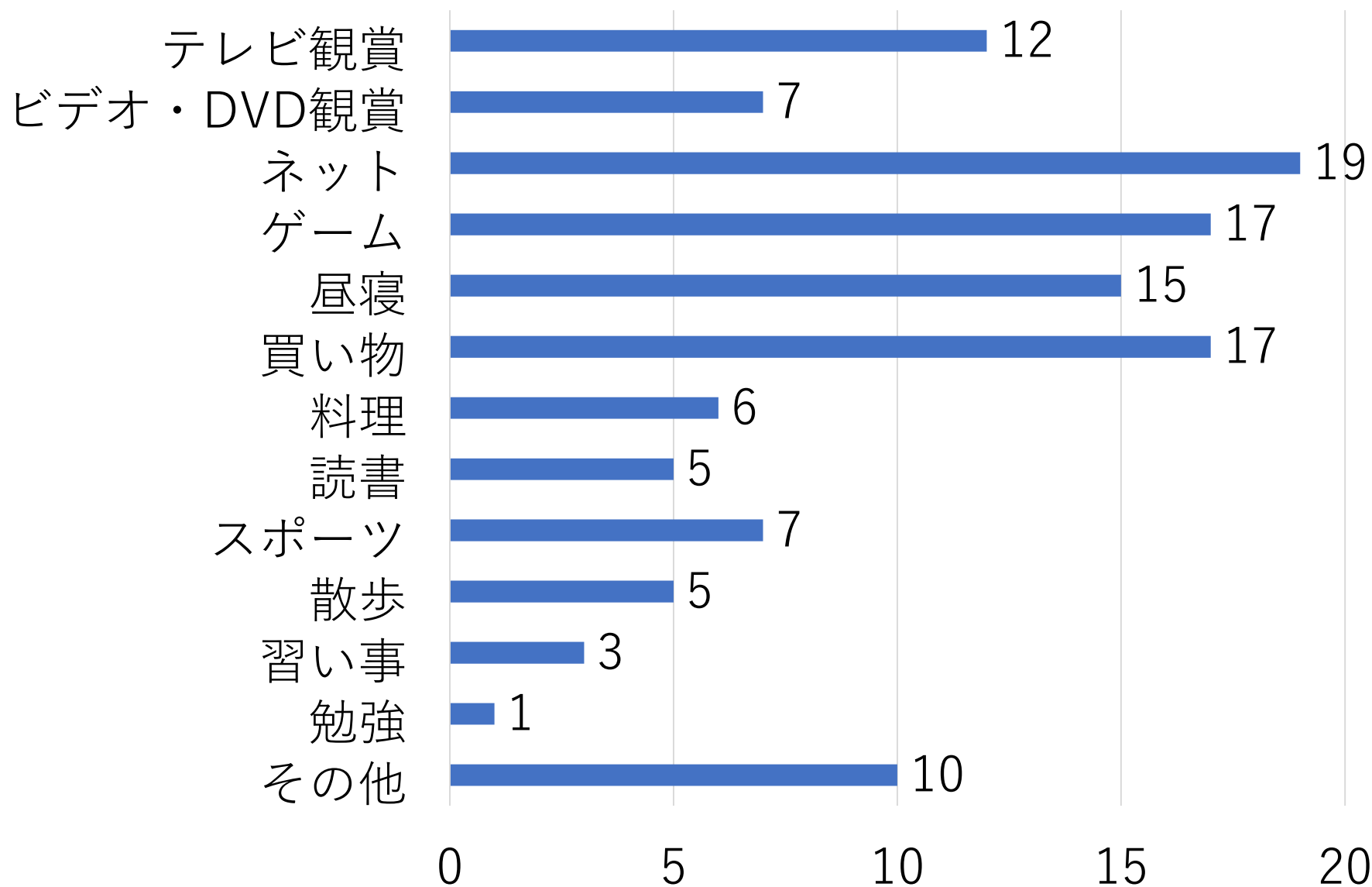
身体	知的	精神	発達	知的 精神	知的 発達	精神 発達	その他
2	9	6	8	2	2	3	1

～アンケート調査結果～

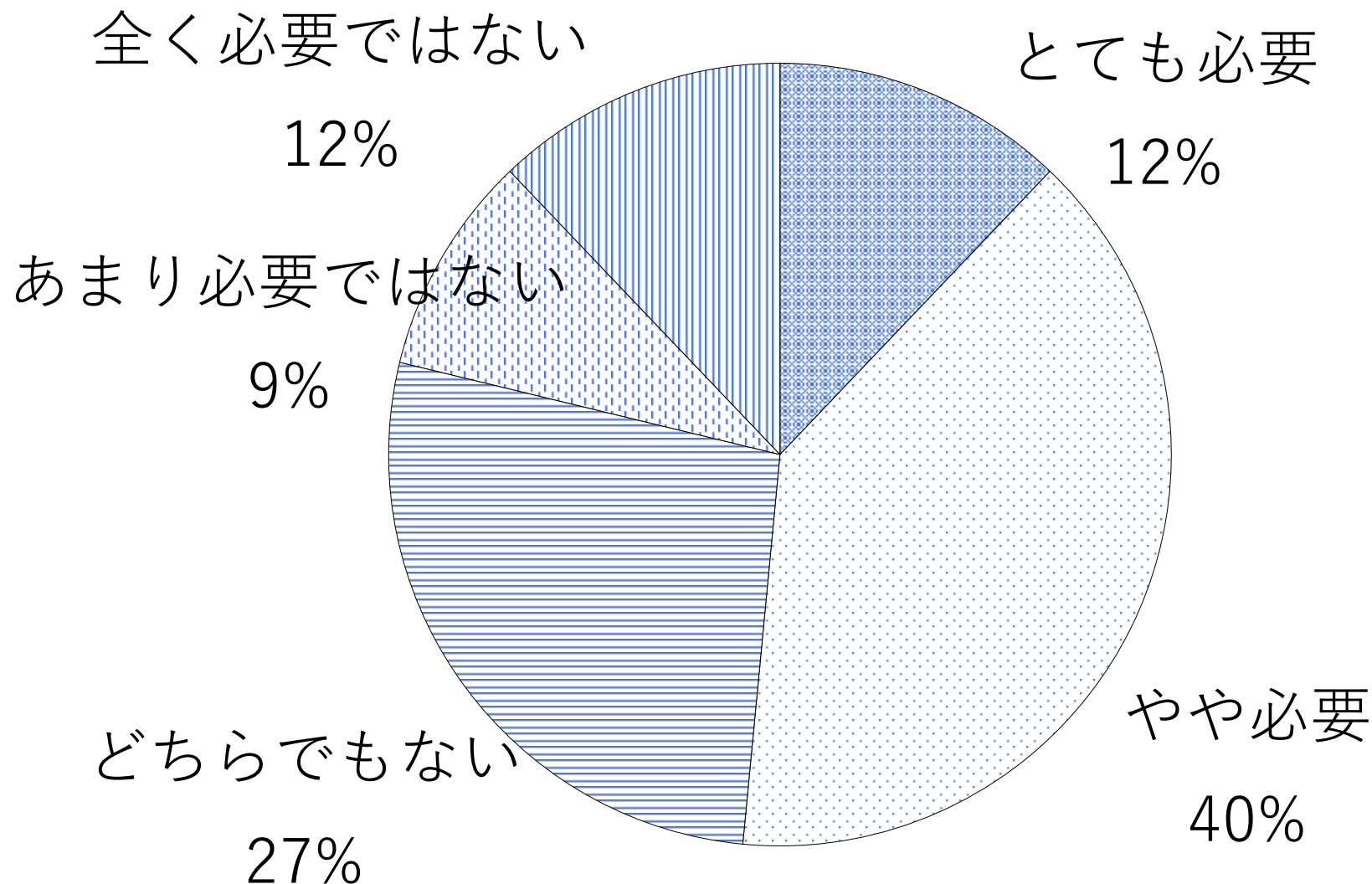
① 休日を過ごす主な相手



②休日に行う活動



③余暇支援の必要性



～考察～

【アンケート調査の結果】

過半数の在職障がい者が余暇支援を必要と回答をしており、**余暇支援の必要性を支持するものと考えられた。**

また、休日は一人若しくは両親や兄弟など親族と過ごすことが多いことや、休日の活動内容がネット、ゲーム、テレビ観賞など自宅内で完結する活動が多いことから、**交流範囲や活動内容の幅が狭いだけでなく、活動範囲も限定されている可能性が窺われた。**

～考察～

【ベビーリーフの活動①】

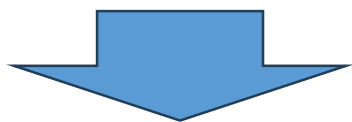
ベビーリーフでは、臨床で感じた余暇支援の必要性やアンケート結果の内容などを踏まえて、多様な方と話せる集いの場を設定し、トークテーマごとにグループを組んでディスカッションを行ってきた。

しかし、**ディスカッション中心の活動では話題が尽きる**こと、**共通の話題がない参加者同士は交流が持てない**ことなどの課題が生じていた。



【ベビーリーフの活動②】

調査結果で交流、活動内容及び活動範囲の幅が狭いことが窺われたため、隔月でレクリエーションを行い活動内容及び活動範囲の幅を広げるとともに、ディスカッションの中で実施したいレクリエーション内容や計画を話し合うなど、**共通の目的のもと幅広い参加者同士で交流できる工夫を行った。**



交流、活動内容及び活動範囲の幅を広げられただけでなく、ディスカッションも話題が尽きることなく、盛り上がりを見せるといった効果が得られた。

～今後の展望～

垣根のない運営

現状ではスタッフが司会・進行、レクリエーション等の準備を行っているが、スタッフ、参加者の垣根を無くし、運営部分についても可能な範囲で参加者に協力を求め、**最終的には参加者自身が能動的な余暇活動を行っていける土壌を形成していきたい。**

周知・広報範囲の拡大

周知範囲についてもホームページやSNSなどを活用し、今後は更に広げるなどより多くの参加者を募っていく。

余暇支援活動の全国への普及

ベビーリーフの立ち上げ～運営までで得た知見や経験を生かし、余暇支援に少しでも興味のある方々に対してノウハウを伝え、在職障がい者の余暇支援が少しでも全国に広げられるよう普及活動を行い、在職障がい者の職業満足度の向上やワークライフバランスの充実などに寄与していきたい。

そのためにもベビーリーフの活動前後で職業満足度やワークライフバランスがどのように変化したか調査報告していく。

ベビーリーフの詳細な活動はコチラ

